

鉄骨梁横座屈補剛工法

床スラブによる梁上フランジ拘束効果を考慮することで設計施工の合理化ができる工法です

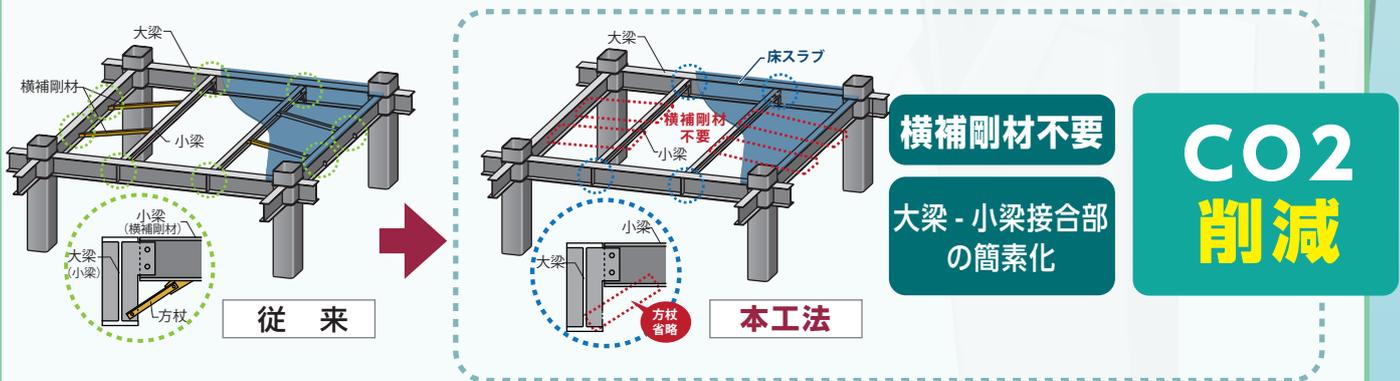
特長

- 横補剛材（小梁・方杖など）が不要です。
- 鉄骨資材（横補剛材&高力ボルト）を削減します。
- 鉄骨加工の複雑さを低減します。
- 建設現場での鉄骨工事を合理化できます。



床スラブの拘束効果が鉄骨梁の横座屈を抑制

工法を適用すると



物流倉庫 [3 階建 / 延床 30,000m²] に本工法を適用した場合

骨組 : スパン 10m、10 スパン × 10 スパン
 横補剛材 : H-300x150x6.5x9 (36.7kg/m)

$2.5\text{m} \times 2\text{本} \times (10\text{スパン} - 1) \times (10\text{スパン} - 1) \times 2\text{層}$
 $\times 36.7\text{kg/m} \times (2\text{ton-CO2eq/t}) / (14\text{kg-CO2eq/本}) = 4,200\text{本}$
 50年スギ炭素貯蔵量: 14 kg-CO₂/本 / 年として換算 (林野庁 HP: 森林の二酸化炭素吸収力より)

約 4,200本
 削減

カーボンニュートラルに必要な杉



JFE スチール 株式会社
 建材技術部 建築技術室

TEL:03-3597-4129
 FAX:03-3597-3825

建築製品
 サイト

